

大教正從四位下家尊福著

教旨大要

明正七年丙午也

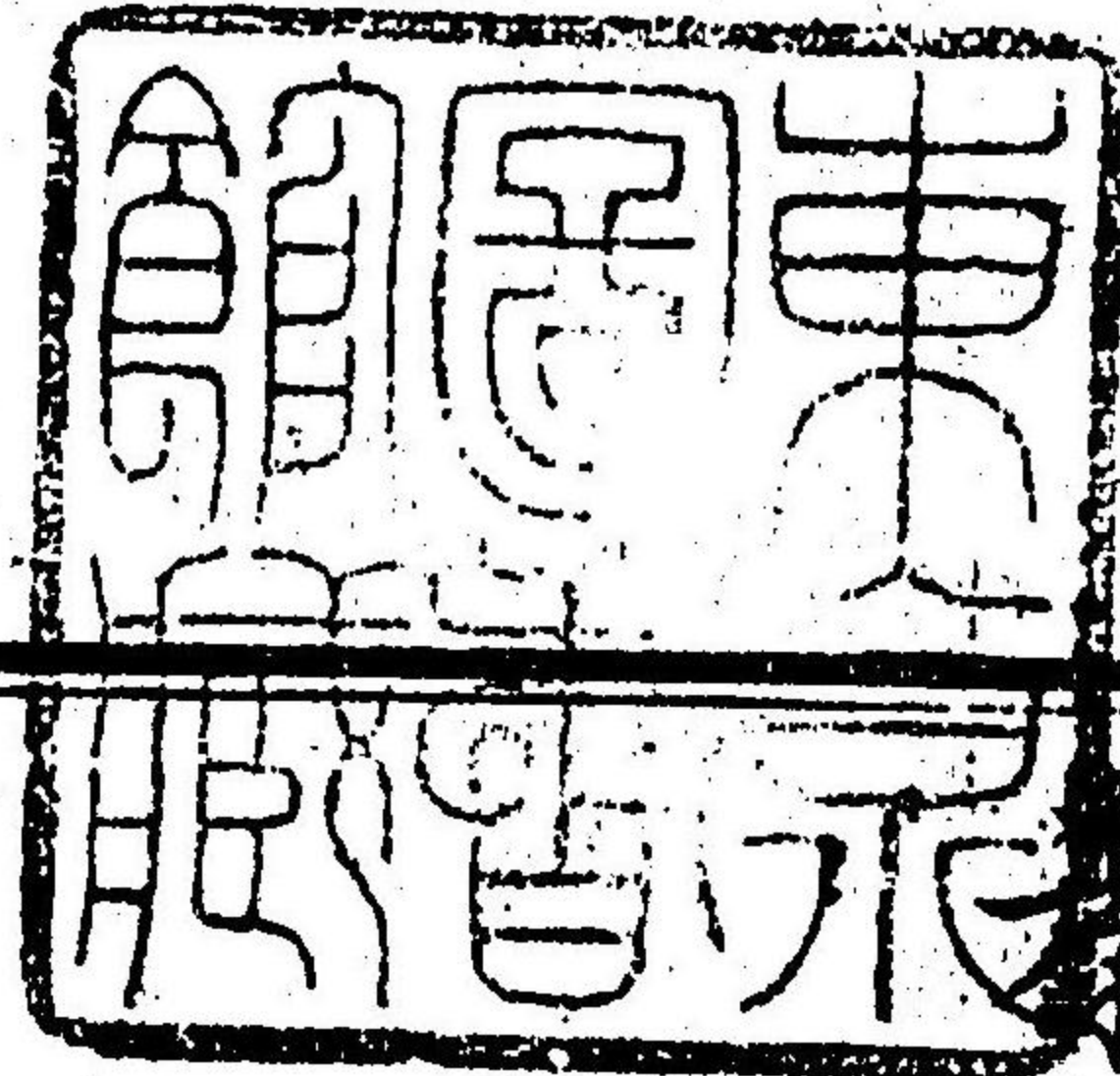
大教正從四位下家尊福著

教旨大要

神道大社教管長大教正從四位下家尊福著

教源

造化の神靈は其源一ふして宇
宙に瀰淪す故に天地位一萬物
育一四時來往一て以る生々化



教旨大要

教源

神道大社教管長教正位家尊福著

造化の神靈は其源一にして宇
宙に瀰淪す故に天地位一萬物
育一四時來往一て以て生々化

教旨大要

々窮れきは一も造化の神徳不
非れはふ一一本散して萬殊
之れも萬殊又一本小歸を所
以なり是則惟神大道の教源ふ
可

教體

萬殊一本衆理一源よ歸すと雖
之も已に天地位を異ふ一幽顯
界を分つよ至ては各之が主宰
ありて統御乃區域明ふ也故に
其統御の區域或知りて以て適從
する所を定むれば萬殊一本乃

真理を明ます所は所以れ也是則
惟神大道の教體なり

教 用

主宰統御乃區域已に明なきは
信賴す處變の序亦正しからざる
を得る故に造化の大源に達

せむこと成欲せば必先幽冥主
宰の大神を信賴せざるは
而して之に事ふるの道は君
父に忠孝れざる始に君父に忠
孝ふるは我身成修むるも基く
是本教乃實用よりして順序の亂

於へららさず所以れ也而して
神は最も忠孝乃人我助く故に
此理を以て神は事ふる乎其道
或誤らば人に接する乎其方を
亂らす修身誠意乃實切於是乎
行と我是則奉教の實用れ也

國體

天壤無窮の神勅は君臣の大義
我教示し給ふ所にして皇基乃
由く以て定まる所國體の由て
以て起る所也故に此神勅我
敬戴して皇基を萬世に奉護し

國體を無窮に保持をばは臣民
の義務にして神明に敬事する
乃一大要旨なり哉知る至誠以
て其道を履行すへし是則本教
城奉をばの主眼なり

魂 神

靈魂は神賦にして祖孫其命脉
一貫す故に人死るときは靈魂
を必幽府に復歸を是を以て生
死神助に洩きされ所以哉明に
し且祖孫乃親愛を獨顯世不止
まらず幽府の靈魂に感通をば

おと成辨へて深く幽冥主宰の
大神を信賴し厚く追祭の誠成
盡し以て靈魂安定乃本據を確
守すへし是則靈魂の終始唯神
に頼る處き所以也

行務

造化の神意を奉養し修理固成
の神業成擴張するは人道の要
務なり故小利用厚生乃顯行成
勉め萬物をしりて各其用を遂げ
し免以て天工成翼賛す其の功
成奏すへし是則萬物増進乃神

理に随ひて萬物に長たる者の
履行を乞ふ本務れり

明治十七年二月廿三日版權免許
同 十七年二月五日記成

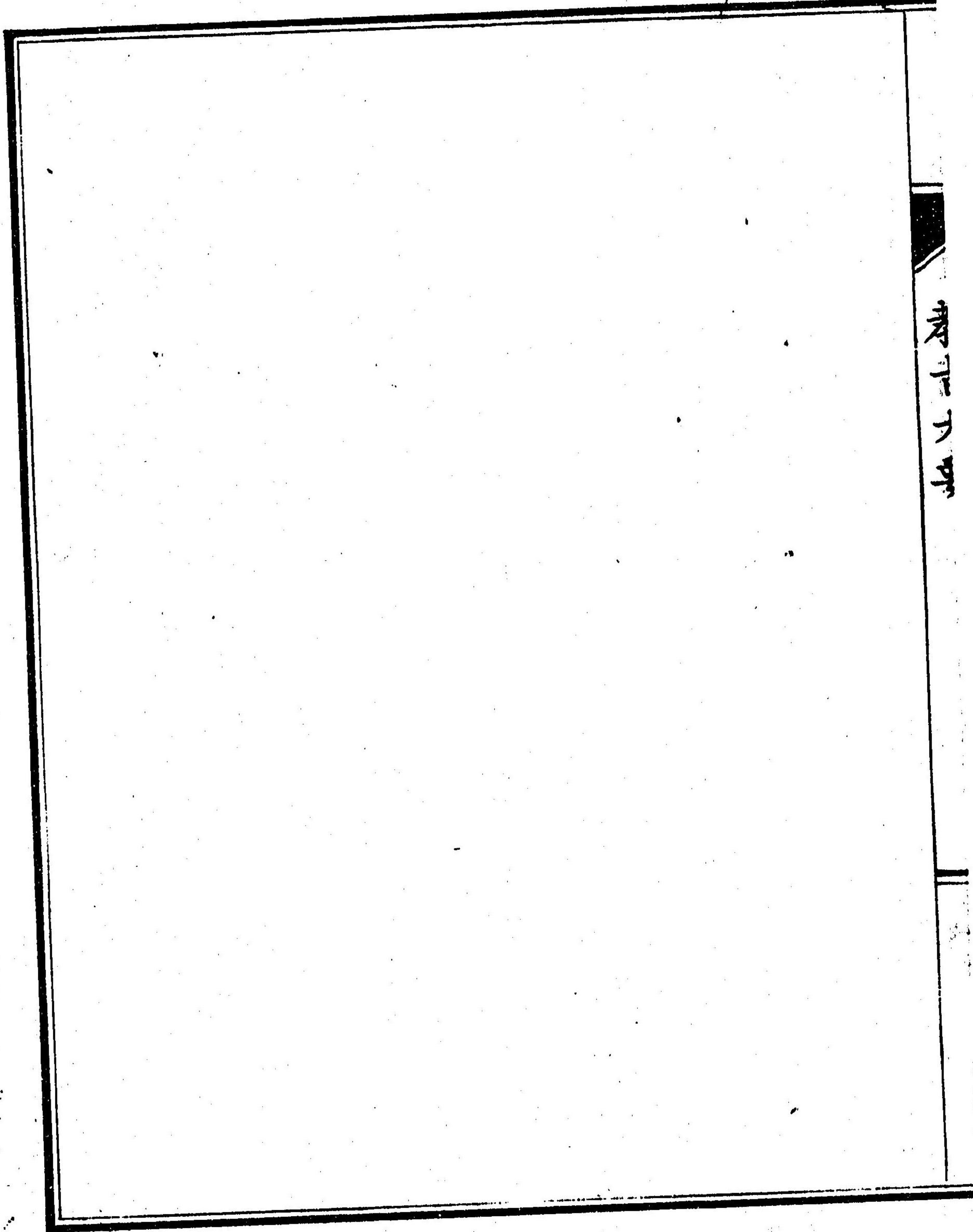
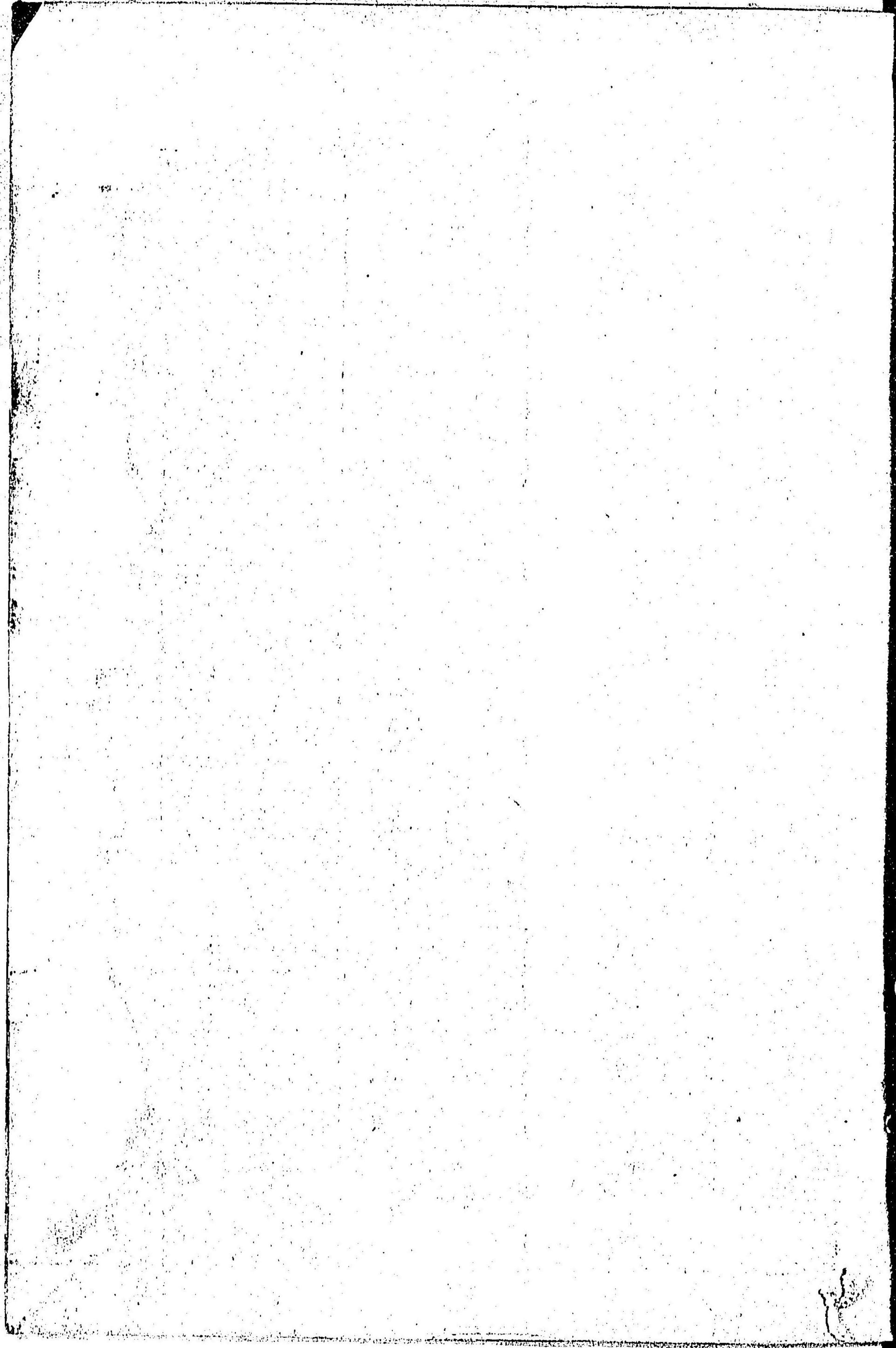
島根縣華族

著者並
出版人

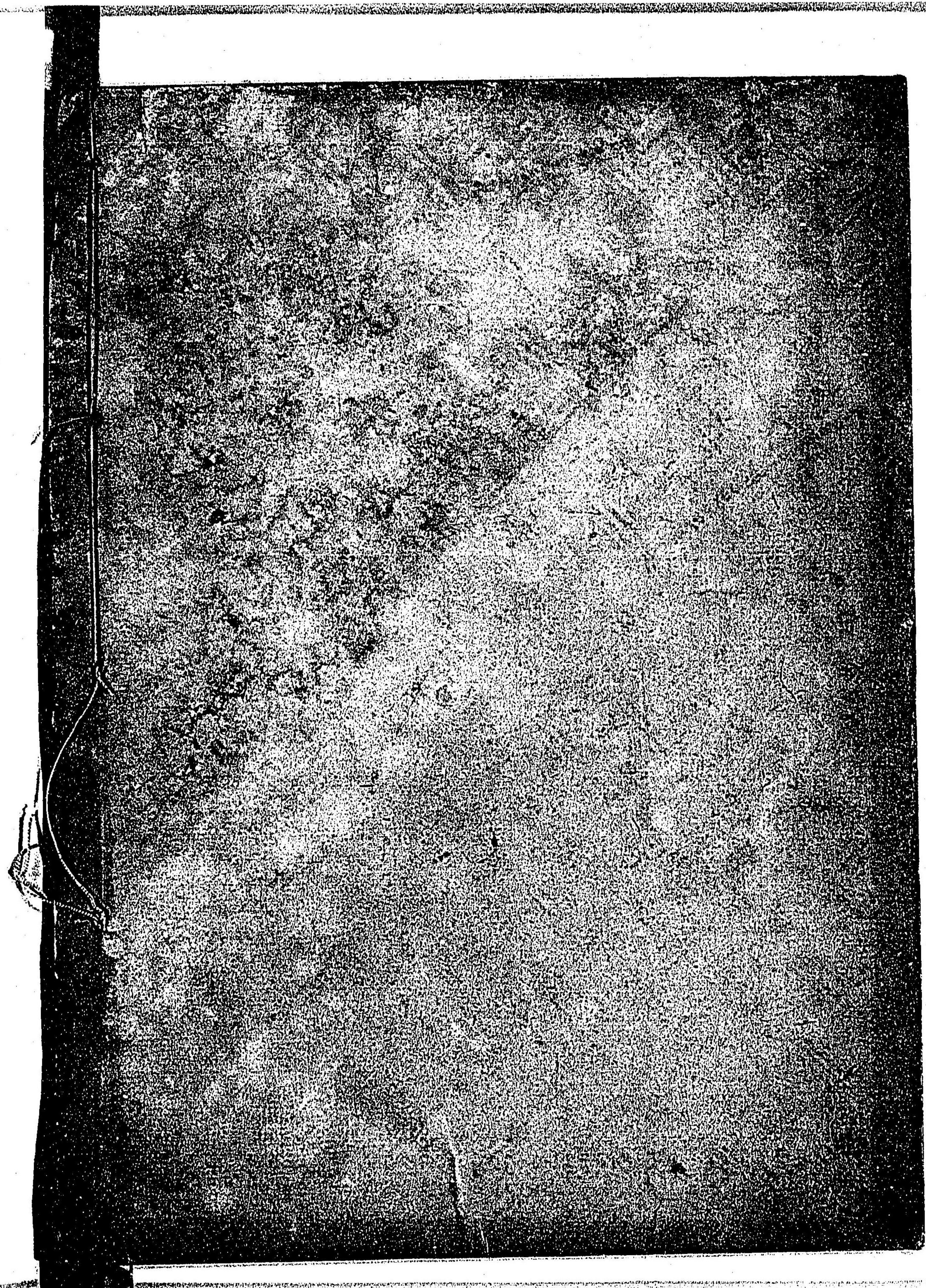
千家尊福

出雲國神門郡杵築東村
八十六番地

定價金十錢



東正入



特56-

246

013947-000-9

特56-246

教旨大要

千家 尊福/著

M17

ABB-0188

